



TITLE:

「維新資料展 - 屏風・器物・額 -」 開催される

AUTHOR(S):

CITATION:

「維新資料展 - 屏風・器物・額 -」 開催される. 静脩 1990, 26(3): 16-16

ISSUE DATE:

1990-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37066>

RIGHT:

い便利な図書館サービスを提供していくことが必

要となっています。

「維新資料展—屏風・器物・額—」開催される

附属図書館では平成元年11月2日から12月9日までの期間、本館展示ホールにおいて秋期展示会「維新資料展—屏風・器物・額—」を開催しました。附属図書館で所蔵しています維新関係の資料は、その多くが品川弥二郎（（1843～1900年）長州出身、明治時代の政治家。吉田松陰に学び尊攘倒幕運動に参加、松方正義内閣では内相を務めた。）が創設した尊攘堂旧蔵の収集品をまとめた「維新特別資料文庫」にあります。書籍のほか、屏風・掛

軸・帖・巻物・額・器物が含まれています。今回の展示会ではこれまで一堂に展示される機会の少なかった屏風・器物の全所蔵品とこれらと関係の深い額を展示しました。観覧者は総数1502名を数えこれまでになく盛況でした。今後も京都大学で所蔵する貴重な資料の展示会を予定していますので、その機会に出来るだけ多くの方々に鑑賞していただきたく思います。

平成元年度大学図書館職員長期研修に参加して

化学研究所図書掛長 小 菅 敏 明

7月24日から8月11日までの3週間の間図書館情報大学を中心に講義、実習、見学が行なわれた。参加者は、北は北海道から南は九州沖縄まで総勢41名で、その内訳は国立が34名、公立が2名、私立5名であった。

この研修会の目的は研修実施要項に「大学における教育・研究活動の急速な進展に伴い、学術情報の迅速かつ的確な提供が重要となっており、大学の中核的な情報資料センターとしての大学図書館が果たす役割は、ますます増大している。このため係長を中心とする中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービス体制を充実する」とあるように、文部省の大学図書館政策の一環としての研修、即ち、これからの大学図書館のあり方、進むべき道を提示したものと思われる。研修は、この目的にそって、
1. 総論 2. 学術情報の流通とネットワーク活動 3. 資料の整備と相互協力 4. 学術情報セ

ンターの活動と大学図書館業務のシステム化

5. 二次情報データベースの形成と利用 6. 情報検索サービス 7. その他 以上7つの分野にわたって講義が行われ、これに加えて、機関の見学、最後に協同研究討議にて締め括られた。

この研修を終えて、私の頭の中の90%をしめたものがある。それは、情報化時代における大学図書館の対応が問われる時代になり、最近多くのところでコンピュータが導入されて来つつある。しかし、まだまだ問題が多くのかさされている。例えば、目録検索システムのものにしばっても、利用者が誰でもすぐ使えるシステムが導入されていないこと、データベース不足（過去のデータが入力されていない）のため、利用者は端末による検索とカード目録による検索をしなければならないなどの問題がある。

端末による目録検索は、果たして利用者にとって最良の検索システムなのであろうか。それは従来のカード目録検索ならば、探しているその情報